

ともに書くことの公共人類学

大学生との共同出版事業をめぐる 1.5 次エスノグラフィ

内藤直樹 (徳島大学)・二文字屋脩 (愛知淑徳大学)・箕曲在弘 (早稲田大学)

本分科会の目的は、人類学者と非人類学者による協働の実践のなかでも、あえて〈学生〉と「ともに書くこと」の公共人類学的な可能性について考察することにある。そのために、一般的には教育の対象と位置づけられる大学生と人類学者が編んだ3篇の商業出版の企画・執筆・編集・出版後の過程を、1.5次エスノグラフィ(木村・内藤・伊藤 2020)の手法で比較検討する。1.5次エスノグラフィとは、現代社会における文化人類学的な知のあり方について考えるために、複数の人類学者による社会的な諸実践を互いに観察し合う調査手法である。本分科会には、各出版に関わった人類学者と大学生(当時)が登場し、当事者の視点から出版過程におけるやりとりの文化人類学的な意義について検討する。そして、それに対して別の人類学者と学生がリプライをおこなう。つまり本分科会を1.5次エスノグラフィの現場とする。

民族誌を書くことをめぐっては、知的な権威としての文化人類学者だけが異文化の「客観的事実」を書くことが虚構として批判された。かわりに文化の翻訳や再編に関わる現場の参加者をもつ多様な視点やポジショナリティのすり合わせ過程を協働のなかから浮かび上がらせるパラエスノグラフィが登場した。パラエスノグラフィの記述がおこなわれるやりとりの現場(パラサイト)は、過剰な空間であり「いつもと違うことが起こりうるオルタナティブな場所(Marcus 2000:7)」であるという。とりわけ官僚主義的な制度に関わる人びとを巻きこんだパラエスノグラフィの場合は、当事者が思いもよらない創造的なやりとりを促進する可能性がある。

その後、マルチスピーシーズ人類学のカークセイとヘルムライヒ(2010)も、異分野の研究者や芸術家そして市民や非人間との対話を通じた多様な民族誌的記述や実践の可能性を志向した。インゴルド(2017)も、対象について書くことではなく、対象に応答しともにある人類学の可能性について考察している。本分科会は、こうした人類学や民族誌的営為の拡張を志向する研究上の関心を共有している。先行研究の多くは、現代社会における制度化された知の体系としてのアカデミアやそれが実践される具体的な場所としての大学の外側および書くこと以外の多様でひらかれた民族誌的实践を強く志向している。だが、そこから翻って大学という場所における人類学者と学生による実践の可能性について、あらためて反省的に考察するまでには至っていない。近年の大学では地域連携や社会貢献が大きく期待されるようになってきている。他方で近年の大学は人類学的実践の場所としての潜在力を失いつつあるようでもある。

こうした大学の逆説的な状況における人類学的な教育の可能性については箕曲・二文字屋・小西(2021)がある。これに対して本分科会では、書くことから生まれた教育の埒外が社会変革につながりうる可能性を考察する。それは大学という装置の中心で「書くこと」がオルタナティブな場所を形成する可能性の探求を通じて、人類学と社会の関係を問い直すことに他ならない。本分科会では、人類学者と非人類学者が「ともに書く」ことによる社会変革の可能性を探求するために、そうした実践を「協著グラフィ」と名付ける。

内藤と北野は、コロナ禍での留学からの撤退体験を整理して納得しようとする全国の大学生と人類学者の協働によって書かれた本の制作過程を人類学者と大学生(当時)の視点で報告する。二文字屋と高谷は、大学公認のボランティアプロジェクトを通じたホームレスとの出会いや自己変容の過程を活写した本の制作過程を人類学者と大学生(当時)の視点で報告する。箕曲は、多文化共生をテーマにした社会調査実習における人類学者と学生双方の変容が、単なる報告書を超えて商業出版に結実した過程について報告する。そして2名のコメントを経て、会場全体を巻き込んだ1.5次エスノグラフィックな実践をおこないたい。

【参考文献】

- 木村周平・内藤直樹・伊藤泰信 2019 「1.5次エスノグラフィが生みだすもの:文化人類学の方法についての協働的考察」『文化人類学研究』20:104-118.
- 北野真帆・内藤直樹(共編) 2022 『コロナ禍を生きる大学生:留学中のパンデミック経験を語り合う』昭和堂.
- ティム・インゴルド 2017 金子遊・他(訳)『メイキング:人類学・考古学・芸術・建築』左右社.
- 二文字屋脩(編著) 2022 『トーキョーサバイバー』うつ堂.
- 箕曲在弘(編著) 2022 『新大久保に生きる人びとの生活史:多文化共生に向けた大学生による社会調査実習の軌跡』明石書店.
- 箕曲在弘・二文字屋脩・小西公大(共編) 2021 『人類学者たちのフィールド教育:自己変容に向けた学びのデザイン』ナカニシヤ出版.
- Kirksey, S. E. and Helmreich, S. 2010 The emergence of Multispecies Ethnography, *Cultural Anthropology* 25(4): 545-576.
- Marcus, George (2000) *Para-Sites: A Casebook against Cynical Reason*, Chicago: University of Chicago Press.

キーワード 書くこと、大学生、パラエスノグラフィ、協著グラフィ